

(別記)

2019 年度熊本地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域は、北西部中山間地帯、南・西部水田地帯、南・東部水田地帯、東部畑地帯、北部水田・畑地帯からなり、野菜、米をはじめ畜産、花き、果樹などの豊富な基幹作目を有しており、その中において主食用米は全水田面積の約6割を占める。

いずれも、立地的優位性、地域性を活かした特色ある経営が行われているが、近年の厳しい諸情勢に加え、都市化の影響を強く受け、農地、農家戸数、基幹労働力の総体的な減少、兼業化、混住化、高齢化の進行、耕作放棄地の増加など都市近郊農業特有の多くの問題を抱えている。

このため、経営の自立安定と国際社会に対応できる高生産性農業の実現に向け、各種の事業に積極的に取り組むことが必要である。特に新たな時代に応えるため、先端技術の導入、ハイテク農業の育成、農産加工の振興等都市農業の特性を活かした豊かで活力ある農業の振興を図ることが重要である。

2 作物ごとの取組方針

当地域内の約5,067haの水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

また、特に、飼料用米、麦、大豆、野菜を転作作物の主体として位置付け、生産コストの効率化等に取り組ながら、魅力ある産地づくりを推進するとともに、産地交付金を利用して、二毛作と資源循環の取組等の耕畜連携を推進する。

(1) 主食用米

農業者の経営の安定などの観点から、効率的かつ安定的な経営主体が市場を通して、多様な消費者ニーズを基点とし、需用に応じた生産に取り組み、売れる米づくりを推進していくことが極めて重要である。

すなわち、従来の「作ったものを売る」方式から、今後は「需要動向に基づき売れるものを作る」方式に転換していく。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、非主食用米の中で需要が見込めるものは、現時点では飼料用米であり、主食用米の需要減少への対応として、飼料用米の取組みを中心に水稻作付面積を維持していく必要があるため、飼料用米を転作作物の中心作物の一つとして位置づける。

飼料用米の生産拡大にあたっては、今後産地交付金を活用した多収品種の導入推進を図っていく。

イ 米粉用米

米粉用米については、主食用米同様、多様化する消費者ニーズに合わせた対応を行い需要の拡大を図る。

ウ WCS用稲

耕畜連携等、地域の実需者との契約に基づき、推進を行う。

エ 加工用米

主食用米同様、多様化する消費者ニーズに合わせた対応を行い需要の拡大を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

営農組織等によるブロックローテーションなど団地化での大規模な経営生産を推進しながら、弾丸暗きょ等排水対策徹底による栽培管理を遵守し、多収・高品質化を目指す。

(4) そば、なたね

産地交付金を活用し、地域の実需者のニーズに合わせた推進を行う。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

本地域の特色である施設園芸野菜、花き・花木類及びその他の作物等についても更なる生産拡大を図ることにより、農業経営の安定化や自給率の向上につながり、また、米の生産調整への積極的な取り組みに対して有効であるため、転作作物のひとつとして位置づけ、産地交付金を活用しながら振興を図っていく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付実績 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	2,416ha・13,458t	2,700ha・15,066t	2,700ha・15,066t
飼料用米	7	7	9
米粉用米	0	1	1
WCS用稲	188	189	189
加工用米	2	2	2
備蓄米	57	57	57
麦	266	270	276
大豆	135	175	141
飼料作物	133	135	135
そば	7	7	7
なたね	1	1	1
その他地域振興作物	621	614	615
野菜	576	580	581
花き・花木	23	23	23
果樹	2	2	2
種苗等作物	20	9	9

※主食用米の目標値(2019年度、2020年度)において使用した単収は558kg/10a

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標		現状値 (2018年度)	目標値 (2020年度)
1	麦・大豆・そば	大規模経営加算（基幹）	作付面積（ha）		250.7	145
			単収 (kg/10a)	麦	291.3	303
				大豆	163.5	176
				そば	66.8	47
2	飼料作物	飼料作物大規模経営加算（基幹）	作付面積（ha）		10.7	(6) 12
			収量（t/10a）		2.2	4
3	麦・大豆・飼料作物・そば・なたね	二毛作助成	作付面積（ha）		240.8	303
			水田利用率（%）		109.0	118
4	飼料作物・WCS用稲・飼料用米わら	資源循環の取組（耕畜連携：基幹、二毛作）	作付面積（ha）		79.1	80
			実施率の向上（%）		24.7	35
5	地域振興作物	地域振興作物助成（基幹）	作付面積（ha）		609.0	615
6	施設園芸作物	施設園芸助成	施設作付面積（ha）		440.9	(426) 445
7	米粉用米・飼料用米	新規需要米支援（基幹）	作付面積（ha）		4.2	(15) 10
			収量（kg/10a）		617	630
8	園芸作物・加工用米・飼料用とうもろこし	高収益作物等拡大加算（基幹）	作付面積拡大（ha）	園芸作物	608.4	(2021年度) 615
				加工用米	2.0	(2021年度) 2
				飼料用とうもろこし	16.6	(2021年度) 18

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。（目標値の上段括弧書きは変更前の数字。）